

総合政策学部 <令和3年度 学校推薦型選抜>

【出題意図】

行政が政策を実施する際には、住民意識を把握するとともに、住民に対して情報・知識を伝達することも必要になる。また、その地域特有の自然条件や歴史的・社会的背景に対する理解も必要になる。自然災害は地域住民の安全な暮らしや豊かな生活を脅かし、防災は地域全体で取り組む必要のある重要な政策である。今回は、河川水害を題材に、地域による差異を意識した防災・治水政策を考える。

①は、後続問題の理解の助けとなるように、霞堤の機能を正しく把握させる問題である。複数の堤防配置例のなかから、霞堤に関する文章記述に整合し、かつ、治水に有効な「構造（平面配置）」を選択させることで、文章を正確に読み取る能力を確認している。

②は、地域政策の立案において大切となる「地域性」を把握させる問題である。統計データから算出される数値と資料文の記述から、2地域の特徴を理解する。基礎的な数値処理能力と、2地域の差異・特徴を分かりやすく整理・表現する能力を確認している。

③は、④で受験生個々の意見を述べる前に、前提条件となる両地域住民の「治水意識の違い」を明確化させるとともに、治水意識の向上に果たす行政や専門家の役割に注目させる問題である。資料文から著者の意図を正確に読み取り、それを限られた文字数で的確に表現する能力を確認している。

④は、資料文作者の意図や地域差を踏まえたうえで、受験生個人の意見を提示させる問題である。どのような意見かは重要ではなく、その意見に至る理由・根拠が示されているか、説得力のある論理展開になっているか、分かりやすい文章表現になっているか、誤字等が無く丁寧な文字で書いているか等を総合的に評価して採点する。日頃からの社会への関心と、文章表現力を確認している。

【解答例・採点の目安】

設問	解答例	配点と採点目安
①	(カ)	15点
②	問1	① -29.6 ② 1,553 ③ 6.12 ①10点 ②10点 ③5点
	問2	更埴地域は長野市に隣接し、農林業就業者数の割合が北川町の1/3程度であるなど、宅地化が進んだベッドタウン

		ンである。これに対して、北川町は20年間の人口減少率が更埴地域の10倍近い約3割にも上るとともに、人口構成比からみて高齢化の進行も著しい農山村地域である。(128字)	※目安：ベッドタウンと農山村の違い10点、図表から2つ以上のデータを正しく引用10点
3	問1	更埴地域では、住宅団地の新住民にとって霞堤からの浸水は寝耳に水であり、霞堤の機能に対する住民の理解は十分とは言えない。これに対して、北川町では住民は氾濫に対して覚悟を持って共存しており、霞堤の機能と特性について基本的な理解が存在する。(117字)	20点 ※文中の表現を使っている5点×2地域、住民理解の差を読み取っている10点
	問2	更埴地域ではベッドタウン化が進み、霞堤の真横にまで住宅団地が建設されたが、新興住宅地の住民は霞堤の存在や役割を知らずに暮らしていた。行政が霞堤をどうするか議論しないまま市街化を進めたためである。また、農業が衰退したことで、農地に栄養分のある土を堆積させるという霞堤の特性も忘れられていた。一方の北川町では、農家の高齢化が進む中でも依然として農業は地域の生業であり、田んぼの収量が上がるという霞堤の機能が住民に意識されている。また、台風災害直後には住民から「開口部を締め切ってほしい」という声が上がったものの、研究者と行政が連携して霞堤の建設経緯や効果を住民に丁寧に説明した結果、霞堤への再認識が進んだ。このように、両地域の都市化の状況などの違い、行政や専門家が積極的に住民理解の向上に取り組んだかどうかによって、霞堤の存在に対する住民の意識や受け入れ方に差異が生じたと作者は考えている。  (25字×16行)	30点 ※宅地化、農業の位置づけなど地域の特徴の差異に言及している10点、専門家と行政による住民理解への取り組みの意義を理解している10点、2つの要因が住民意識に影響したことを適切にまとめている10点
4		作者は、合併前の北川町は行政が主導的にゴソを処理していたが、編入後の延岡市は土地所有者の処理に任せていると指摘している。北川町の霞堤付近の土地が氾濫を引き受けることで下流の延岡市街域の被災が抑えられていることから、作者は、高齢化の著しい北川町の住民がゴソの処理に苦勞していることに対して、延岡市の行政がもっと手厚く支援すべきだと考えている。	40点 ※ゴソの処理について、合併前後の行政の対応に差があることに着目している10点、延岡市の行政の役割に関する作者の

	<p>我が国では地方の人口減少と多発する水害など自然災害への対応が大きな課題となっている。ダム建設など巨大な公共工事への投資が難しくなる中で、霞堤のように自然の力と共存する伝統的な防災技術は守られるべきと私も考える。一方で、農山村の過疎化・高齢化が進んでおり、こうした技術を将来にわたって継承・活用するには、地域住民の自主性に頼るだけでなく、流域全体の受益の観点から自治体行政が支援を講じることが求められるのではないか。</p> <p>また、北川町の事例のように、行政や専門家が常に地域住民と連携し、伝統技術や水害予防に対する住民理解を向上させていく取り組みも大切である。いくら立派な防災施設を作っても、その機能や役割を正しく理解し、いざという時に備える住民の防災意識（ソフト）が伴わなければ、施設（ハード）の効果は発揮されないことを、私たちは東日本大震災の経験から学んだはずだと思うからである。</p> <p>(25 字×24 行)</p>	<p>意図を適切に読み取っている 10 点, 以上を踏まえて、自分の意見を論理的に説明している 20 点</p>
--	---	--